

第722回建設技術講習会 現場研修事業の概要

真備緊急治水対策プロジェクトについて

平成30年7月豪雨により、高梁川水系の小田川及び小田川支川の計8ヶ所で堤防が決壊し、倉敷市真備町では、死者51名、浸水面積約1,200ha、浸水戸数約4,600棟という甚大な被害が発生した。これを受けて、国・岡山県・倉敷市が連携して「真備緊急治水対策プロジェクト（以下「同プロジェクト」）」を策定し、各主体がハード対策及びソフト対策に取り組み、令和6年3月に完成を迎えた。

1 小田川合流点付け替え事業〔中国地整〕

- ・小田川合流点付け替え事業は、同プロジェクトの中核をなす、ハード対策事業の一つ。
- ・本事業により、洪水時に高梁川からの背水影響が減少し、小田川の水位が大幅に低下、平成30年7月豪雨と同等の流量が安全に流れるようになる。
- ・平成26年の事業着手からおおむね10年間で完成予定だった本事業は、平成30年7月豪雨を受け、予算の集中投資、生産性向上等の取組により、5年前倒しでの完成に至った。

…………… 岡山県倉敷市



2 一級河川高馬川改良復旧事業〔岡山県〕

- ・一級河川高馬川は、小田川の支川である真備町内を流れる河川の一つ。平成30年7月豪雨では、岡山県が管理する河川の10河川16箇所堤防が決壊した。
- ・同プロジェクトの一環として、越水により決壊した本河川の堤防の嵩上げや断面拡大、河道掘削などの改良復旧工事を実施した。
- ・小田川本流の治水対策と連携し、支川の流下能力を向上させることで、地域全体の治水安全度を高めている。

…………… 岡山県倉敷市



3 まびふれあい公園整備事業〔倉敷市〕

- ・まびふれあい公園（復興防災公園）は、倉敷市真備町の復興を象徴する施設として整備された。平常時は防災教育や真備の魅力発信の場、災害時は防災拠点などとして活用できる。
- ・地域の活性化や防災意識醸成を目的に、令和3年3月に登録された「小田川かわまちづくり」の一環として、国が実施する小田川堤防強化と一体的に倉敷市により整備され、地域のにぎわいの創出に寄与している。

…………… 岡山県倉敷市



4 倉敷美観地区整備事業（自由視察）〔倉敷市〕

- ・倉敷美観地区整備事業は、歴史的建造物の保存修復や景観に配慮した都市機能の整備を通じて、地域の魅力向上と観光振興を図る取組。
- ・空き店舗や空き地の利活用、文化施設との連携、歩行者空間の充実などにより、回遊性と滞在性を高め、地域経済の活性化にも寄与している。

…………… 岡山県倉敷市

